



# 「尼崎のために。」

## 1 国道43号線にエレベーター設置!

大阪高裁の勧告で11年前、「尼崎大気汚染公害訴訟」は和解に至ったものの、その具体的な合意内容に関し、原告団側の要望と国側の提案には隔たりが大きく、膠着状態が続いていました。

この2年余り、弁護団を含む原告団の方々とも私も対話を重ね、国土交通省の担当部局と現地調査も行き、国道43号線での大型車通行を中央分離帯側の1車線に誘導する新しい方針を大筋で受け入れて頂く形となりました。

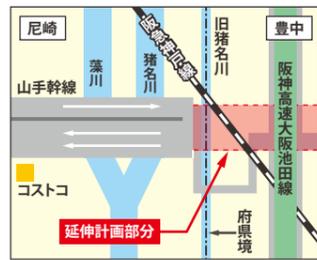
今年には国道43号線の五合橋交差点、出屋敷交差点の歩道橋にエレベーターが新設されます。既に昨年秋、東側の

歩道橋にエレベーターが設置済みの東本町交差点では7月上旬、西側にも増設が完了。

8月には神戸地裁で、周辺住民に対するアスベスト公害の企業責任を我が国で初めて認める「クボタショック」判決が言い渡されました。この問題にも原告団の方々と一緒に取り組んでいます。



## 2 山手幹線を豊中市側へと延伸させます!



懸案だった山手幹線の大阪府側への延伸計画が動き出しました。

都市計画道路として一昨年10月、神戸市長田区から尼崎市まで兵庫県下の29.5kmが全通した山手幹線は現在、豊中市との境の旧猪名川で行き止まりです。

住宅が密集する豊中市側では、生活道路を通過する車両の急増が、社会問題化しています。その改善に向けて私も

国土交通省道路局と打ち合わせを重ね、昨年夏には大阪府、兵庫県、豊中市、尼崎市、国交省近畿地方整備局の担当責任者が一堂に会して定期協議する「山手幹線連絡調整会議」が新たに設けられました。

将来的には阪急電車神戸線を園田地区と同じく高架化し、阪神高速11号池田線が上部を走る豊中市の庄本交差点まで山手幹線を延伸する計画が検討されています。

まずは地域住民の皆さんの意向を踏まえ、生活道路へのガードレール設置等で安全度を高め、道路改良を進めていく予定です。

## 3 「鋼矢板を用いた堤防補強」の実現を!

日本の堤防は土と砂だけの土堤です。コンクリート壁の隙間から水が浸み込み、内部は液状化現象を起こしがち。大雨で壁面が崩れると、一気に堤防全体が破堤してしまう原因となっています。

こうした事態を防ごうと欧米諸国では、過去に決壊した場所には、堤防の両肩から基礎まで、鋼矢板を縦に2枚打ち込む強化策を導入しています。

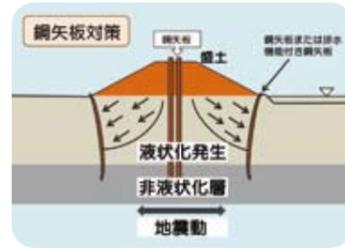
2001年に「『脱ダム』宣言」を発した後、鋼矢板を用いた治水対策の実施を国に求めてきました。膨大な費用と歳月を要するダム建設やスーパー堤防と異なり、地域を分断する家屋移転を伴わず、地元の土木建設業者が担当可能な地域密着型公共事業です。

けれども国は、堤防内に土と砂以外の“不純物”が混じる

のは認められない、と難色を示してきました。国会議員になった後も求め続け、初めて昨年、鋼矢板を用いた治水に関する調査費が予算計上されました。今年には実現に向けて実証実験を行います。

藻川と猪名川に挟まれた中州に暮らす園田地区の方々も昨年末、国土交通大臣に面会し、鋼矢板を用いた堤防補強の実施を求める5641筆の署名簿を手渡しました。

日本の治水を「土堤原則」から大転換すべく、皆さんと一緒に踏ん張ります。



※国会質疑の映像・議事録、各種の連載原稿は <http://www.nippon-dream.com/> でご覧になれます。

## 4 「宅幼老所」で「老保一元化」の福祉を実現!



温もりが感じられる福祉を実現したい。

こうした夢を抱き、知事時代に県独自の補助事業として「宅幼老所」を長野県内に300カ所以上、開設しました。

駅前商店街の空き店舗、住宅地の空き家を改修して、お年寄りとお孫さん、小さなお子さんを、自宅感覚の“ひとつ屋根”の下でお世話する、

保育士の資格を持ったスタッフを、高齢者のデイサービスに配置して、お年寄りとお孫さん世代の乳幼児と一緒に昼ご飯を食べ、一緒にお昼寝をする空間が宅幼老所です。お互いの元気の素を分かち合えます。

幼保一元化の前に老保一元化を、と国会議員として厚生労働省に提案し続け、国も補助制度を昨年半ばに創設。尼崎でも塚口町6目目に、温もりを感じさせる宅幼老所「あゆみの家」が誕生しました。

皆さんの周囲でも開設を希望される方がおられましたら、ご一報下さい。実現に向けて、お手伝いします。

## 5 更生保護サポートセンターが充実しました!

犯罪・非行を犯した人の社会復帰を手助けする保護司は、実に尊い存在です。

県知事時代、無給で活動し続ける保護司の皆さんから、ガラス張り知事室で実情を伺い、県内各地へ視察や会議で出掛けた帰路、人生に再挑戦する若者を雇用して下さる職場へ、マスコミを同行させることなく、密かに1人で訪れました。

尼崎でも202名の保護司の方々、お忙しい仕事のかたわら、尽力下さっています。

更生者の相談を受ける静かな空間を確保したい。そうした尼崎の保護司の方々の熱意に応えようと、法務省保護局と折衝を重ねたところ、活動実績も評価されて今春、更生保護サポートセンターの設置指定を受けました。

## 6 「ブックスタート」こそ「子育て支援都市AMA宣言」の第一歩!

0歳児に絵本をプレゼントして読み聞かせするブックスタートは、イギリスで始まりました。

尼崎でも実現しようと、白井文前市長と稲村和美現市長に働き掛け、JR立花駅前のすこやかプラザを拠点に、オリジナル絵本「とんとんとん」を新生児に届ける事業が昨年から始まりました。

スタッフやボランティアの方が情感を込めて語り掛けると、言葉は判らなくとも赤ちゃんは“第六感”で反応し、さまざまな喜怒哀楽の表情を見せてくれます。

尼崎の新生児は年間4300人前後。その全員に絵本を差し上げる費用は300万円。一般会計予算1900億円の僅か6万分の1の金額で、子育て世代だけでなく読み聞かせボランティアの方々にも、確かな喜びを提供してくれます。

豊富な緑地や公園、充実した医療機関、待機児童の少なさで近年、高い評価を受ける尼崎は、梅田へも電車で10分弱。新大阪駅にも伊丹空港にも近い、子育て世代に人気の、便利で健康的な街へと着実にイメージ転換を果たしつつあります。



人情味と正義感にあふれる尼崎の新たな強みを、皆と一緒に活かして参りましょう。

※本会議での代表質問や月刊「文藝春秋」への寄稿等をまとめた冊子も出来上がりました。ご希望の方は同封のFAXシートをお送り下さい。